

<p>科目名：介護技術〈含、口腔リハビリテーション〉</p> <p>(Care Skill 〈including Oral Rehabilitation〉)</p> <p>履修年次/時期：3年次 前期 授業形態：講義・実習</p> <p>担当教員：宮城敦*、中向井政子*、小堀陽子*、今泉うの*、黒田英孝*、中村仁志*</p> <p>(* : 実務経験有)</p>	必	1単位 (45時間)	
学修目的	<p>介護を要する老年期にある対象や障害を有する対象の特徴を理解すると共に、歯科治療における介護の方法や基本的な介護技術について、安全で安楽に実践するための知識・技術および態度を習得する。</p> <p>CP 2, 3, 6に関連する。 科目 No.S3B07H03</p>		
この科目が目的としているDP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	○
		(3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 口腔の健康支援を通し、全身の健康を守る高度な専門的能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
(2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。		○	
(3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。		◎	
<p>◎： この講義・演習・実習と最も関連があるDP</p> <p>○： この講義・演習・実習と関連があるDP</p>			
到達目標	<p>① 高齢者の基礎的知識である身体的・精神的・社会的特徴を理解し説明できる。</p> <p>② 障害者の基礎的知識である身体的・精神的・社会的特徴を理解し説明できる。</p> <p>③ 日常生活に必要な基本的介護技術を習得する。</p> <p>④ 摂食嚥下機能の評価方法を学び、その機能を維持・増進するリハビリテーションや口腔機能管理方法を習得する。</p> <p>⑤ 要介護者や障害者に適した食物形態や必要栄養量について説明できる。</p> <p>緊急時に必要なバイタルサインの測定法や救急蘇生法について習得する。</p>		
授業概要	<p>講義：高齢者の基本的特徴等を再確認する。また、ヒトの基本的な摂食嚥下機能とその評価法について学ぶ。</p> <p>実習：高齢者体験により高齢による機能低下の実際を体験する。実際の基礎的介護技術（移乗・体位変換等）を学び、歯科衛生士の立場からどのように生かしていくか議論する。摂食嚥下評価、リハビリテーション、吸引、および口腔衛生管理を互いに実践して理解し、考察する。バイタルサインや救急蘇生法についても実習を通してその重要性や必要性を理解する。</p>		
授業計画	<p>講義：高齢者の基本的特徴および老化の基本的特徴を理解する。ヒトの摂食嚥下機能についてもその最初の哺乳から成人の摂食嚥下機能を理解する。</p> <p>実習：①高齢者体験を経験しその実態を理解する。②介護の基本となる移乗を体験し理解する。③バイタルサインの実際を計測し理解する。④救急蘇生法を体験し理解する。⑤嚥下調整食を作製し理解する。⑥摂食嚥下評価を行い理解する。⑦問接訓練を体験して理解する。⑧直接訓練を体験し理解する。⑨マナボット®により口腔衛生管理、鼻腔内および口腔吸引を体験し理解する。</p>		
評価方法	<p>学期末試験 (50%)</p>		

	レポート等提出物および実習への参加度（50%） 試験に対するフィードバックは掲示で行う。
予習・ 復習時間	【予習】0.9時間 【復習】0.9時間
教科書	A「イラスト図解 いちばんわかりやすい介護術」永岡書店 B「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版」医歯薬出版
参考書	「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」医歯薬出版 「歯科衛生士講座 高齢者歯科学」永末書店
オフィス- 連絡先	宮城 敦 月 16:40~17:00 miyagi@kdu.ac.jp メールにて連絡ください 中向井政子 月~金 12:40~13:20、16:30~17:00 3号館2階研究室 nakamukai@kdu.ac.jp 小堀陽子 月~金 16:40~17:00 3号館2階教員研究室 kobori@kdu.ac.jp 今泉うの 月~金 17:00~18:00 附属病院9階医局 imaizumi@kdu.ac.jp 黒田英孝 月火、木金 17:00~18:00 附属病院9階医局 kuroda@kdu.ac.jp 中村仁志 月~金 16:40~17:00 3号館2階研究室 h.nakamura@kdu.ac.jp *各教員、事前にメールをいただくと確実に対応可能です。

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (4/8)	実習の概要説明 事前テスト(ほぼ全範囲) 講義：1) 高齢者の特徴 ① 老化の仕組みについて説明できる。 ② 高齢者の定義・高齢化率について説明できる。 ③ 日本人の死因順位について説明できる。	[予習] 教科書 B, P.1-18 を読んでおくこと [復習] 高齢者の特徴の再確認 [キーワード] 加齢による変化(身体的, 知覚的, 心理的, 認知機能, 免疫機能)	○宮城、 中向井、 小堀
2 (4/17)	講義：摂食嚥下の仕組みとその障害 ① 摂食嚥下の仕組みを説明できる。 ② 摂食嚥下の発達とその障害を説明できる。 ③ 加齢による摂食嚥下障害を説明できる。	[予習] 教科書 B, P11-23, 34-67, 135-149, 168-193 を読んでおくこと [復習] 摂食嚥下の仕組みと発達を振り返る。老化による摂食機能低下について振り返ること。 [キーワード] 摂食の5期、プロセスモデル、摂食嚥下機能獲得段階、摂食嚥下障害、間接訓練、窒息、誤嚥性肺炎、摂食スクリーニングテスト	○宮城、 中向井、 小堀
3 (4/24)	講義：摂食嚥下障害とリハビリテーション ① 摂食嚥下障害の評価法を説明できる。 ② 摂食嚥下障害のリハビリテーションを説明できる。 講義：事前テストの解説	[予習] 教科書 B, P135-149, 150-226 を読んでおくこと [復習] 加齢による摂食嚥下機能低下の理由とその評価・対応について振り返ること [キーワード] 口腔内加齢変化、窒息、誤嚥性肺炎、口腔衛生管理、摂食スクリーニングテスト、外部観察評価、マンチング、反復唾液嚥下テスト、改定水飲みテスト、フードテスト、咳テスト、頸部聴診法、精密検査、VF、VE 間接訓練、直接訓練	○宮城、 中向井、 小堀
4 A (5/13) B (5/20)	実習：バイタルサイン・モニタリング ① 脈拍数の測定法を習得し、説明できる。 ② 血圧の測定法を習得し、説明できる。 ③ 動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) について説明できる。	[予習] 血圧、脈拍、動脈血酸素飽和度を調べること。 [復習] 上記について再度確認する。 [キーワード] バイタルサイン、呼吸、体温、脈拍、血圧、触診法、聴診法、動脈血酸素飽和度、パルスオキシメーター	○今泉、 中向井、 宮城

<p>5 A (6/10) B (6/3)</p>	<p>実習：介護技術（体位変換）</p> <p>①体位変換技術について習得し、説明できる。</p>	<p>[予習] 教科書 A の該当部分を読ん でくること</p> <p>[復習] 体位変換法について実際に復 習すること</p> <p>[キーワード] 基本姿勢、寝返り、起 き上がり、体位（端坐位、半座位、フ ァーラ位、仰臥位、側臥位、腹臥位）、 健側、麻痺側、体位変換</p>	<p>○中村、 小堀、 (宮城)</p>
<p>6 A (6/3) B (5/27)</p>	<p>実習：救急蘇生法</p> <p>①一次救命法について習得し、説明できる。</p> <p>②AEDについて習得し、説明できる。</p>	<p>[予習] 救急蘇生法について調べるこ と</p> <p>[復習] 一次救命法について考察する</p> <p>[キーワード] 心肺蘇生法、BLS、胸 骨圧迫、AED、CPR</p>	<p>○黒田、 中向井、 (宮城)</p>
<p>7 A (5/24 金) B (5/13)</p>	<p>実習：高齢者疑似体験・車椅子の操作と移乗</p> <p>① 高齢者の機能低下について体験して理解する。</p> <p>② 車椅子の操作と移乗について習得する。</p> <p>③ ユニットへの移乗について習得する。</p>	<p>[予習] 教科書 A、P12-24、112- 133 を良く読んでおくこと</p> <p>[復習] 高齢者は活動性が低下するこ とを考察する。車椅子の名称と操作法 について復習する</p> <p>[キーワード] 高齢者疑似体験、 車椅子、車椅子の名称（ティッピング バー、ハンドリム、フットサポート）</p>	<p>○小堀、 (宮城)</p>
<p>8 A (5/31 金) B (6/17)</p>	<p>実習：嚥下調整食（介護食・配慮食）</p> <p>①嚥下調整食の必要性を理解し、説明できる。</p>	<p>[予習] 教科書 B、P161-169 を読 んでくること</p> <p>[復習] 障害者や要介護者に合う食形 態について考察すること</p> <p>[キーワード] 嚥下食ピラミッド、 嚥下(調整)食、とろみ剤、食形態、初 期食、ペースト食、押しつぶし食、 咀嚼食</p>	<p>○服部(招 聘講師)、 中向井</p>
<p>9 A (6/17) B (6/10)</p>	<p>実習：摂食嚥下評価</p> <p>①摂食嚥下機能の評価法を習得し、説明できる。</p>	<p>[予習] 教科書 B、P19-21、161- 169 および講義プリントを読んでく ること。</p> <p>[復習] 摂食評価法を再確認する。</p> <p>[キーワード] [キーワード] RSST、 MWST、FT、オーラルディアドコキ ネシス</p>	<p>○宮城、 小堀</p>
<p>10 A (6/24) B (7/1)</p>	<p>実習：摂食嚥下リハビリテーション1)</p> <p>①間接訓練について習得し、説明できる。</p>	<p>[予習] 教科書 B、P202-215h およ び講義プリントを読んでおくこと。</p> <p>[復習] 間接訓練法に何があるか考察</p>	<p>○宮城、 小堀</p>

		<p>する。</p> <p>[キーワード] 脱感作、バンゲード法、ガムラビング、嚥下体操、頭部挙上訓練(シャキア)、フローイング、アイスマッサージ、押し運動</p>	
<p>11</p> <p>A (7/1)</p> <p>B (6/24)</p>	<p>実習：口腔衛生管理（口腔ケア）・吸引技術</p> <p>①口腔衛生管理の方法を習得し、説明できる。</p> <p>②歯科衛生士による口腔機能管理における痰吸引の目的について説明できる。</p> <p>③鼻腔内および口腔内吸引を習得し、説明できる。</p>	<p>[予習] 教科書 B, P19-21, 117-123、および講義プリントを読むこと。</p> <p>[復習] 評価法を確認する。安全で効果的な口腔のケア方法を考察する。</p> <p>[キーワード] 口腔ケア、口腔健康管理、ファーラ位、仰臥位、側臥位</p>	○中向井
<p>12</p> <p>A (7/8)</p> <p>B (7/22)</p>	<p>実習：摂食嚥下リハビリテーション2)</p> <p>①直接訓練について習得し、説明できる。</p>	<p>[予習] 教科書 B, P196-201, 216-226 および講義プリントを読んでおくこと。</p> <p>[復習] 直接訓練法に何があるか考察する。</p> <p>[キーワード] 息こらえ嚥下、一側嚥下、横向き嚥下、うなずき嚥下、嚥下の意識化</p>	○宮城、 中向井、 小堀

注：第4回から12回は、班（A・B）によって順番・日程が変更になります。